

はじめに

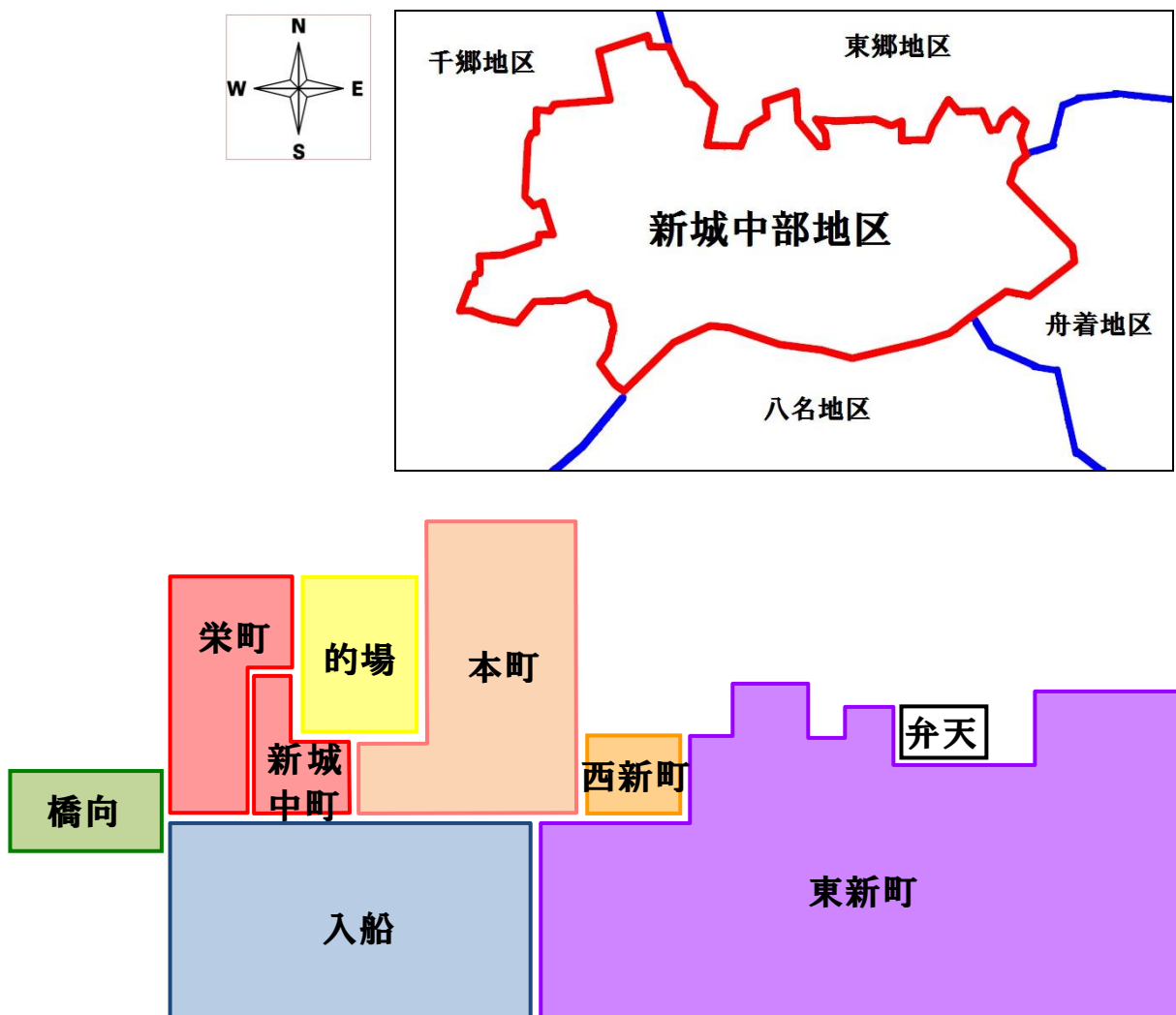
新城地域計画は、地域住民自らが地域の自治組織を通じて、区域内の特性や課題に応じたこれからのまちづくりの方向性や地域の将来像など新城中部地区住民共通の活動方針と位置付けられるような計画として取りまとめたものです。

新城中部地区住民が、「住んでいてよかった」「これからも住み続けたい」と思えるような活動を行っていくために、3つのテーマを軸とした内容となっています。本計画が、この地域の「自治」を推進する大切な一歩として、また、新城中部地区が新城市の“中心地”として、市全体に向け「活気」や「元気」を発信し続けられるようなものとなれば幸いです。

しんしろ城下町の会 会長 加藤芳美

計画の区域

本計画の区域は、新城地域自治区の区域とし、区域内に住む全ての人を対象となります。



第1章 地域の現状

(1) 人口の状況

① 行政区別人口の推移（国勢調査 単位：人）

平成7年以降の人口の推移をみると、区域全体としても減少傾向にあるのが現状です。世帯数については増加傾向にあり、世帯分離等による核家族化が進行していることがうかがえます。

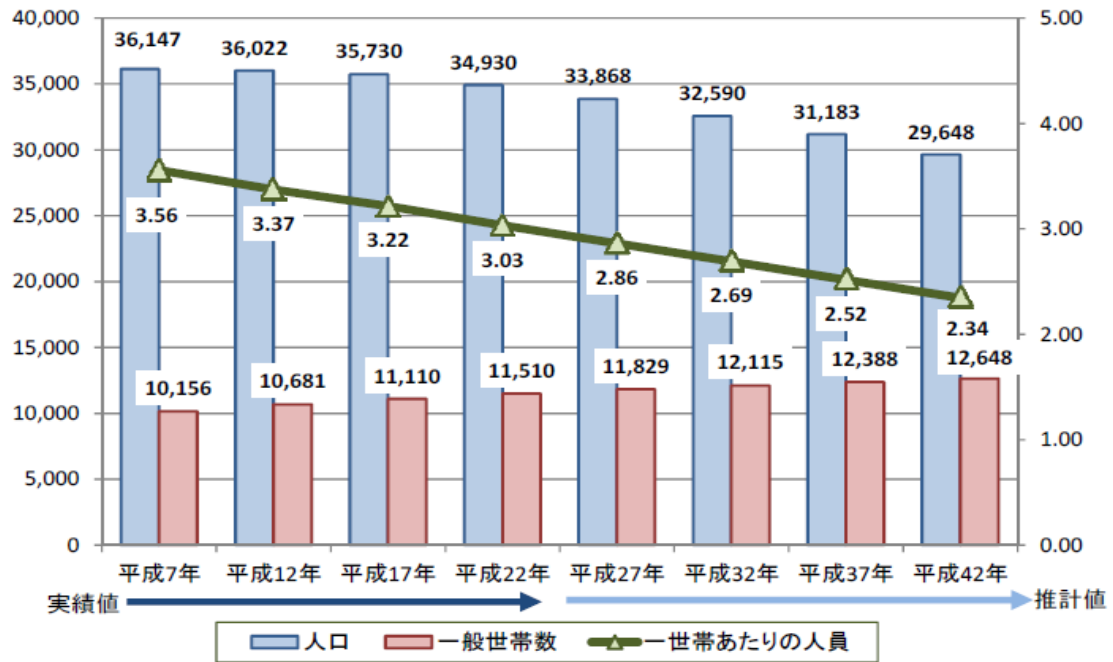
	H7	H12	H17	H22
東新町	2,571	2,794	2,920	2,348
弁天				601
西新町	222	211	189	155
本町	1,309	1,188	1,115	1,118
入船	759	739	762	743
新城中町	397	388	332	328
栄町	952	870	858	778
橋向	725	672	611	571
的場	602	555	527	491
人口合計	7,537	7,417	7,314	7,133
比較	—	-120	-103	-181
世帯数	2,331	2,432	2,521	2,528
比較	—	+101	+89	+7
市全体	54,602	53,603	52,178	49,864

※弁天区人口は、H22のみ住民基本台帳で把握できた。

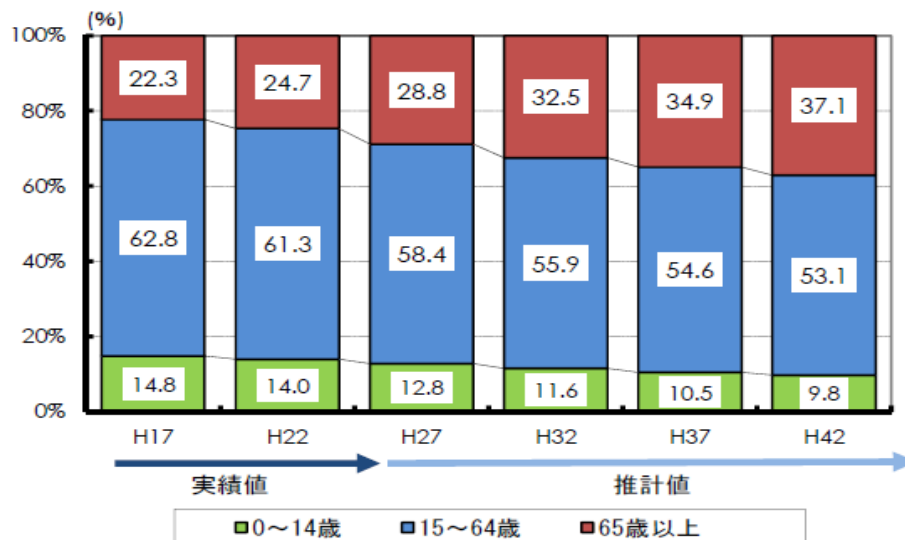
② 将来の人口・世帯数

国勢調査の結果を基にした旧新城市の地区の人口と世帯数の推計結果においても、今後さらに人口の減少と世帯数の増加が表れています。また、年齢構成別人口の推計では、さらに少子高齢化が進んでいくことが見て取れます。

将来人口推計



年齢構成別人口の推計



(都市計画課データより)

(2) コミュニティ組織

① 行政区

各区から選任された区長のもと、組長などの区役員により会合を定期的に行い、区内の事業などを進めています。

東新町区、西新町区、本町区、入船区、新城中町区、栄町区、橋向区、的場区、弁天区

② 消防団

市の公的機関として、郷土愛護の精神に基づき有志によって組織され、主として火災の警戒及び鎮圧、その他の災害の防御及び被害の軽減等の消防活動に従事しています。

第一方面隊 新城分団 第1班（東新町、西新町、弁天）
第2班（本町、入船）
第3班（新城中町、的場）
第4班（栄町）
第5班（橋向）

③ その他の組織

地区住民の健康増進、ふれあいの場づくりとして新城中部運動会の開催などを行う中部体育振興会、新城警察署の指導のもと、地区内の安全安心パトロールなどの啓蒙活動を展開する交通安全推進協議会、その他、老人クラブ、PTA、子ども会など各区において、公民館活動や清掃活動、資源回収など自主的な活動を行っています。

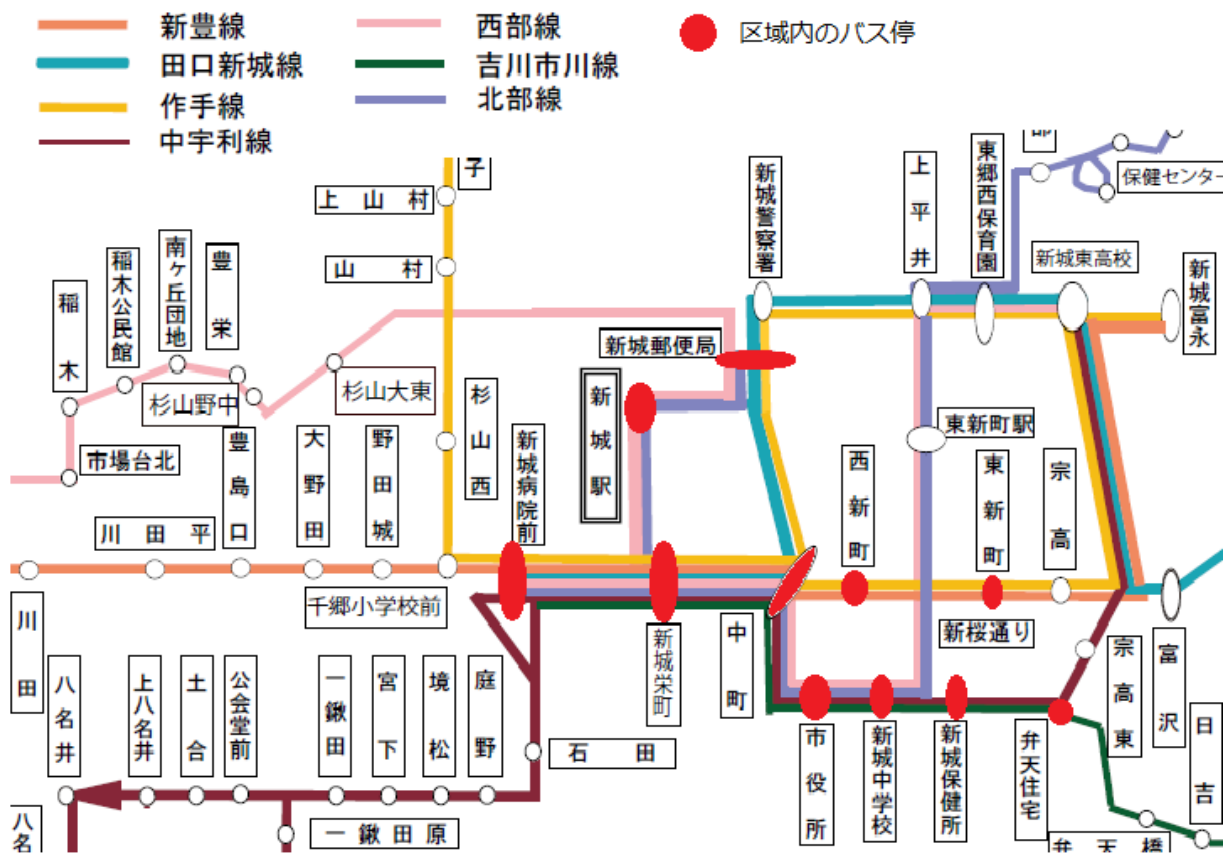
(3) 公共交通

① JR 飯田線 (駅名)

(新城) — (東新町)

※東新町駅は、東新町、西新町、弁天区民の最寄駅として記載した。

② 公共バス (バス停)



(4) 歴史・伝統文化

① 歴史〈まちの形成史〉

豊川に沿って三河地方と伊那地方を結ぶ街道が走っているこの地で、天正3年(1575)、織田・徳川連合軍と武田軍が戦った「長篠・設楽原の戦い」が起きました。

この戦いで功績があった長篠城主「奥平信昌」は、徳川家康の長女「亀姫」をめとり、豊川のほとりに「新城城」を築き移転しました。この築城がまちの出立となり、その後、菅沼氏の陣屋として明治時代まで続きました。

まちの原型は、豊川に沿った新城城から始まり、その周囲に武家屋敷街がつくられ、伊那街道に沿って商人町がつくられ、まちの四方を寺院神社が守るように形成されていきました。

やがて、新城の城下町は、舟運と陸運の結節点として栄え「山湊馬浪」とうたわれるようになりました。問屋街のまちには小売店、サービス店等が増え「商いのまち」が育まれていきました。



奥平貞昌



亀姫



亀姫の墓 (大善寺)



山湊馬浪とうたわれた新城のまちの様子

明治になり、自治体としての郡及び町村がつくられましたが、大正15年(1926)に郡制度が廃止され、代わって県の行政区分の郡として、新城町に南設楽郡役所が置かれました。

まちには鉄道(飯田線の前身である豊川鉄道、鳳来寺鉄道)が敷かれ、さらに陸運にトラック等が加わることにより、舟運はその役割を終え、山湊の姿も大きく変わっていきました。武家屋敷ゾーンが官庁街となり、伊那街道沿いは商店街として繁栄を誇りました。

昭和初期には、飯田線の全線開通により新城駅周辺は賑わいを増し、高度経済成長とともに中心市街地は発展していきました。

しかし、その後、昭和の後半からの道路整備の進展により、新城駅前周辺は徐々に店舗が減少していくことになります。

平成に入り、現在では国道151号バイパス沿道に出店が相次ぎ、鉄道による繁栄の時代から自動車中心の町並み形成が進んでいます。



新城駅前



新城のまちなか(栄町)

【出典:写真アルバム 豊川・蒲郡・新城・北設の昭和】



多くの人でにぎわう月1回の新城軽トラ市「のんほいロット」



② 文化財

(史跡・建造物)

名称	所在地	時期	所有者	指定年月日
新城城跡	西入船	戦国他	新城市	昭和 33.4.1
芭蕉句碑	北畑	江戸	庚申寺	昭和 33.4.1
能舞台	宮ノ後	江戸	富永神社	昭和 33.4.1

(典籍)

名称	所在地	時期	所有者	指定年月日
太田白雪白筆著書	町並	江戸	個人	昭和 33.4.1
船長日記	宮ノ前	江戸	宗堅寺	昭和 63.8.19

(古文書)

名称	所在地	時期	所有者	指定年月日
菅沼家家譜	宮ノ前	江戸	宗堅寺	昭和 33.4.1
今川義元証文	裏野	戦国	永住寺	昭和 51.12.21

(彫刻)

名称	所在地	時期	所有者	指定年月日
石造庚申碑	北畑	江戸	庚申寺	昭和 33.4.1

(工芸品)

名称	所在地	時期	所有者	指定年月日
能装束・能面	町並	江戸	新城能楽社	昭和 33.4.1
鉄砲	宮ノ前	戦国	宗堅寺	昭和 33.5.9

(無形文化財)

名称	所在地	所有者	指定年月日
祭礼能	本町	新城能楽社	昭和 33.4.1
立物花火	東新町	立物花火保存会	昭和 36.1.31